

冬を越す生物

■冬を越す準備

12月、冬を迎え蒲生干潟の生物も冬越しに入っている。転石の下にはカワザンショウガイが見られ、多数が密集している姿も見られた (Fig. 1)。Fig. 2は日和山付近にある湿地の水中、ヤマトオサガニの巣穴が見られる。先月には同所でヤマトオサガニが摂餌する姿が見られた。

Fig. 3は導流堤の通水部付近、七北田川に面した砂地で採集したイソシジミである。20cm程度掘ることで簡単に採集でき、多数が生息していると考えられる。春から夏に蒲生干潟ではイシガレイの稚魚が成長するが、イソシジミの水管はその重要な餌となっている。イシガレイの餌は十分に存在すると思われる。

なお、先月22日の津波による漂着物は導流堤の通水部付近に存在し (Fig. 4)、今後通水を阻害する可能性が懸念される。



(Fig.1 カワザンショウガイ)



(Fig.2 ヤマトオサガニの巣穴)



(Fig.3 イソシジミ)



(Fig.4 津波による漂着物)

■鳥の季節

冬にはたくさんの鳥類が観察される。Fig. 5は摂餌するミュビシギである。干潟を走り回り盛んに摂餌する姿が見られた。今後干潟は多くの鳥類でにぎわうことであろう。



(Fig.5 ミュビシギ)

(佐藤 賢治)